

発行所 難波別院 宮浦一郎 発行人 真宗大谷派 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番11号 Tel. 06-6251-5820(代表) 06-4708-3275(編集) 1力年2000円(郵共) 1部 150円 振込口座番号 00950-1-24511 加入者名 宗教法人難波別院 http://www.minamimido.jp/

南御堂

現代と親鸞



龍谷大学教授

鍋島 直樹

1959年兵庫県生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。文学修士。同大学文学部教授。同大学人間科学・宗教学・リサーチセンター長。浄土真宗本願寺派真覚寺副住職。同派ビハラ活動推進委員。京都府立医科大学医学倫理審査委員。東北大学大学院と連携し「臨床宗教師」研修を龍谷大学大学院で実施。日本医師会生命倫理懇談会委員を歴任し、日本医師会優功賞受賞。著書に、『死別の悲しみと生きる』(本願寺出版社)他多数。

公共空間で 宗教的ケア

人は誰しも、その時代の悲しみと共に生きている。臨床宗教師研修は、東日本震災の悲しみに寄り添う宗教者の社会実践と、田宮仁の提唱によるビハラ活動の実績を踏まえて、2012年4月、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座に誕生した。臨床宗教師は日本版チャプレンであり、岡部健医師が提唱した。臨床宗教師とは、病院、社会福祉施設、被

災地などの公共空間で、大学院教授の鈴木岩弓 宗教勧誘を目的とせず、は、こう明示している。相手の価値観、人生観、「2011年3月に勃

臨床宗教師の誕生とその意義(上)

相手と共に答えを探す宗教者

信仰を尊重し、生きる力 発した東日本震災以後、日本中からさまざまな宗教者が宗教団体が積極的に被災者支援の活動 岡部健医師はこう語っ

を行い、注目されてきた。そうした中には、布教伝道を目的とせず、時には異なる宗教的背景をもつ宗教者同士が協同の場で行う宗教的ケアの場が見られ、被災者に大きな勇気を与えてきま

た。①戦後の日本では、宗教や死生観について語り、この暗闇に降りてい

る。②「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上 ③自らの死生観と人生観を養う ④宗教者以外の諸機関との連携方法を学ぶ ⑤幅広い「宗教的ケア」の提供方法を学ぶ 臨床実習は、東日本大震災被災者訪問と追悼法

ト教聖職者との宗教者間交流など120時間を研 修する。特にグループワーク、ロールプレイ、会話記録検討会、ふりかえりを重視する。反省を とすることである。臨床 宗教師は、如来の大悲に 抱かれて、一人ひとりの 解決のつかない課題に向

そばに寄り添い 話を聞くだけで

こうして岡部健医師ら は、医療者と宗教者が協 力してガン患者や被災者 を支援する体制「心の相 談室」を樹立し、東北大 学に臨床宗教師研修が創 設された。この志願を受 けて、龍谷大学、上智大 学、高野山大学、種智院 大学などでもその養成が 始まっている。

生きる力を 育む援助で

臨床宗教師研修の具体 的な目標は次の五つであ

戸赤十字病院、社会福祉 施設での研修、広島平和 記念資料館研修、被爆者 添うとは、特別な技術や 個人の能力を役立てて、

塵光

(M)



今月の紙面 4面 12/67面 【特集】